本研究の資料編のページ数の都合上、本研究に活用した全資料名の掲載は無理と考え、かなりの資料名を削除した上でここに載せた。

削除した部分については、太字とした。

削除した資料について知りたい方は、下記までご連絡ください。

〒377-0311

群馬県北群馬郡小野上村大字村上 3767-1
小野上村立小野上小学校 0279(59)2031
吉野 千秋

資料編 1 (本文中の注について)

(1) 『初等教育資料 平成13年8月号』(文部科学省)

(2) 『平成10年改訂 小学校学習指導要領』(文部省)

(3) 明治期における本県師範学校の名称の変遷

『群馬大学教育学部百年史』より作成

年代	変遷
明治6年2月1日	教員伝習所の設立
明治6年6月	蠅蚕学校に改称
明治9年9月20日	群馬県師範学校に改称
明治19年4月	群馬県尋常師範学校に改称
明治31年4月	群馬県師範学校に改称

(4) 『新教育学辞典』(第一法規出版)

(5) 『東京高等師範学校・東京文科大学創立六十年』に「明治十九年二月、始めて行軍旅行を実施す。(中略)今日広く行はるる修学旅行の嚆矢〔こうし〕である。(下略)」とある。

(6) 森有礼は初代文部大臣に就任した後、「教育上奏〔じょうそう〕文案」の中で「(前略)国家富强〔こっかふきょう〕ノ長計ヲ固〔かた〕フセント欲〔ほつ〕セハ第一中学校以上諸学校ノ教科時間ヲ割〔さ〕キ(中略)兵式体操〔へいしきたいそう〕ノ練習ヲ以〔もつ〕テ(中略)学生ヲシテ武毅順良〔ぶきじゅんりょう〕ノ中ニ感化成長セシメ以テ忠君愛国ノ精神ヲ涵養〔かんよう〕シ(下略)」と述べている。

また、「兵式体操」については、注(9)を参照。

(7) 「資料編5-3」を参照。

(8) 「資料編5-1」を参照。この資料は、明治21年12月の県尋常師範学校の修学旅行について書かれたものだが、「且昨年ノ修学旅行ニ比スレバ劣少クシテ利益多シ・・・」の一文があり、明治20年にも修学旅行を実施していたことが分かる。

(9) 「尋常師範学校ノ学科及其程度」では、「体操(兵式体操を含む)」が毎週6時間も担当されており、「体操」を重視した教育課程であったことが分かる。またその中で、「(前略)兵式体操八生兵学中隊学行軍演習(下略)」と規定されていた。

(10) 「資料編6、7」を参照。

(11) 『忍び寄る軍靴の響き』鈴木健一著「修学旅行」1980年4月号内(財日本修学旅行協会)

(12) 『学制百年史』(文部省)

(13) 『前橋高校百三年史 上巻』(群馬県立前橋高等学校)には、「由来(ゆらい)、修学旅行に就(つい)ての不平は、頗(すこぶ)る多し」と題して、明治30年代初めに県尋常中学校の生徒が書き残した「思うに、修学旅行というものは、無意味に汗をかきながら、ただ山道を迷いながら歩きまわることが目的なのだろうか。(中略)名所や旧跡に着いたといっても、ただ名前だけを聞いて騒ぎながら通り過ぎてしまうのは、はたして目的にかなっているのだろうか。こんなことなら、むしろ背囊(リュックサック)を背負い、銃を持って赤城山腹の野原で行軍する方が有意義だと思ふが、そうではない。(下略)」(口語訳=研究者)という感想文が載っている。

(14) p3の表1を参照。

(15) 「資料編5-1」を参照。

(16) 「学制百年史」(文部省)

(17) 「資料編5-3」を参照。

(18) 『前橋高校百三年史 上巻』(群馬県立前橋高等学校)

(19) 『学制百年史』(文部省)

(20) 「資料編6」を参照。

(21) 「資料編4-1」を参照。

(22) 「資料編4-2」を参照。

(23) 「資料編4-3」を参照。

資料編 2 (参考文献)

- (1) 県内諸学校の修学旅行について
 - 『群馬県史』通史編9 第一章・学校教育 第二節・近代教育の整備
 - 資料編22 教育 学校教育 (群馬県)
 - 『群馬県教育史』第一巻 第三編・近代教育の展開 3・教育令下の学校教育
 - 第二巻 第一編・教育制度の確立と初等教育 3・教育勅語の渙発と教育内容の統制
 - 第三巻 第一編・義務教育制度の充実と発展 3・教育の実際 (群馬県教育委員会)
 - 『群馬県における近代教育の史的変遷 - 遠足・修学旅行に視点をあてて - 』根岸洋一著 「群馬県教育センター研究報告書」昭和61年度・第116集内 (群馬県教育センター)
 - 『上野教育會雑誌』第二十七號・明治二十三年一月十五日発刊 (上野教育會)
 - 他、修学旅行関係の記事のある号多数
- (2) 県内尋常高等小学校の修学旅行について
 - 『桃井校百年のあゆみ』(前橋市立桃井小学校)
 - 他、県内各小学校記念誌多数
- (3) 県内県立学校の修学旅行について
 - 『前橋高校百三年史』上巻 (群馬県立前橋高等学校)
 - 他、旧制中学校及びその分校を母体とする県立高校の記念誌、旧制県立学校を母体とする県立高校の記念誌
- (4) 各市諸学校の修学旅行について
 - 『前橋市教育史』上巻 第三章・近代教育の確立 第一節・小学校令期の前橋の教育 (前橋市)
 - 他、県内各市の教育史
- (5) 群馬県師範学校の修学旅行について
 - 『群馬大学教育学部百年史』第二章 師範教育の確立と教員講習 (群馬大学教育学部同窓会)
 - 『群馬県教育史』別巻・第三章 初等教育につくした人々・第二節 大正・昭和期における教育と主な実践者 (群馬県教育委員会)
- (6) 国内の修学旅行の現状・歴史について
 - 『修学旅行のすべて』(財/日本修学旅行協会)、2002年
- (7) 修学旅行の歴史について
 - 『忍び寄る軍靴の響き』鈴木健一著
 - 他、鈴木健一氏の論文多数
 - 「修学旅行」1980年4月号(財/日本修学旅行協会)内
 - 『明治期の師範学校に於ける修学旅行について』新谷恭明著
 - 「九州大学教育学部紀要(教育学部門)」1995年第41号(九州大学教育学部)内
- (8) 教育制度の定義について
 - 『新教育学辞典』4 (第一法規出版)
- (9) 教育制度の歴史について
 - 『学制百年史』総説 二近代教育制度の創始 三近代教育制度の確立と整備
 - 第一編 近代教育制度の創始と拡充 (文部省)
 - 『日本近代教育百年史』4 学校教育(2) (国立教育研究所)
- (10) 群馬県の変遷について
 - 『群馬県史』通史編7・一 新時代の到来と群馬県の政治・社会 概説 (群馬県)
- (11) 明治初期の県内小学校数の変化について
 - 『群馬県教育史』第一巻・第二編 近代教育の創始・1 学制の発布と本県の教育 (群馬県教育委員会)
- (12) 群馬県師範学校の校名の変遷について
 - 『群馬大学教育学部百年史』第一章 師範学校の設立と教員養成
 - 群馬大学教育学部関係略年表 (群馬大学教育学部同窓会)

- (13) 現行教育課程について
 『平成10年改訂 小学校学習指導要領』(文部省)
 『平成10年改訂 中学校学習指導要領』(文部省)
 『平成11年改訂 高等学校学習指導要領』(文部省)
- (14) 完全学校週五日制について
 『初等教育資料』平成13年月8号(740) (文部科学省)

資料編 3 (調査資料)

- (1) 群馬県尋常師範学校の修学旅行について
 『修学旅行日記 大谷廣吉氏 筆』(渋川市大谷家所蔵)(明治21年12月17日～)
 『七十余年の回顧 角田 伝氏 著』(赤城村角田家所蔵)
 『尋常師範学校宛 修学旅行指令案』(明治26年6月13日付)
 他、修学旅行関係文書多数
 「群馬県行政文書件名目録第三集明治期学務」(県立文書館所蔵)内
- (2) 群馬県尋常中学校の修学旅行について
 『群馬県知事宛 尋常中学校修学旅行認可上申書』(明治27年5月12日付)
 他、修学旅行関係文書多数
 「群馬県行政文書第三集明治期学務」(県立文書館所蔵)内
- (3) 尋常高等小学校の修学旅行について
 『玉村尋常高等小学校修学旅行貯金ノ報告』(明治41年)
 他、修学旅行関係文書多数
 「群馬県行政文書第三集明治期学務」(県立文書館所蔵)内

資料編 4(その他の資料)

1・現在の修学旅行の目的

以下の資料は、すべて「修学旅行のすべて(財/日本修学旅行協会)、2002年」による。

全国の公立小学校の修学旅行の目的(平成13年5月調べ)

	目的	%
1	集団生活のきまりや公衆道徳について望ましい体験を得させる	25.2%
2	地理・歴史・文化財などを実地に見聞し学習を拡充する	24.2%
3	楽しい思い出を作る	16.4%
4	師弟や児童相互の人間関係を深める	10.3%
5	自然の偉大さ美しさにふれ豊かな情操を育てる	8.3%
6	政治・経済・産業などの重要地を直接見聞し学習を拡充する	7.0%
7	自然を観察し、研究して教室では得られない学習や体験をさせる	3.5%
8	健康・安全に気をつけ進んで心身を鍛える	2.4%
9	その他	2.2%
10	農・山・魚村などの生活体験を通して理解を深める	0.4%

全国の公立中学校の修学旅行の目的(平成13年5月調べ)

	目的	%
1	集団生活訓練(人間関係の育成)	30.9%
2	歴史学習(史跡・美術・文学などを含む)	22.5%
3	学校生活の良き思い出づくり	19.9%
4	社会科学習(産業・工場見学などを含む)	9.7%
5	地理学習(自然・人文・地質などを含む)	7.1%
6	その他	6.0%
7	自然に親しみ、からだを鍛える	3.8%

全国の公立高校(全日制)の修学旅行の目的(平成12年5月調べ)

	目 的	%
1	地理・歴史・政治・経済などを直接見聞し学習を拡充する 地域の文化・民族・生活の調査活動	23.1%
2	自然の偉大さ美しさにふれ豊かな情操を育てる スキー・登山などのスポーツ学習	19.2%
3	集団生活のきまりや公衆道徳について望ましい体験を持たせる	18.5%
4	師弟や児童相互の人間関係を深める	17.5%
5	生涯を通して学校生活の楽しい思い出を作る	13.7%
6	国際理解・国際親善 その他	7.6%

2・関東地方の諸学校の修学旅行先

小学校

	旅行先	%
1	関東	72.3%
2	中部	17.4%
3	東北	6.1%
4	近畿	5.6%
5	その他	6.3%

中学校

	旅行先	%
1	近畿	83.8%
2	東北	8.3%
3	中部	3.0%
4	中国	2.3%
5	その他	4.3%

高校

	旅行先	%
1	九州	64.6%
2	北海道	26.8%
3	近畿	18.7%
4	中国	6.9%
5	その他	6.0%

(注)小・中・高校とも複数回答。小・中学校については平成13年5月、高校については12年5月調べ。

3・全国の公立学校の修学旅行日数

小学校

	日数	%
1	1泊2日	54.3%
2	2泊3日	15.2%
3	3泊4日	0.5%

中学校

	日数	%
1	2泊3日	73.9%
2	3泊4日	23.5%
3	4泊5日	2.2%

高校(全日制)

	日数	%
1	3泊4日	53.2%
2	4泊5日	34.2%
3	5泊6日	6.8%
4	2泊3日以内	5.4%
5	その他	0.5%

(注1)小学校の3.0%については不明。1泊2日は84.3%の誤りか。

(注2)小・中学校については平成13年5月、高校については12年5月調べ。

資料編5 調査資料 解説文

本研究の資料編のページ数の都合上、ここでも解説全資料、及び全文の掲載は無理と考へ、資料編・2の調査資料に名前のあるもののみ、ここに載せた。ただし、前記の都合、上削除した部分もある。

ここに載せなかった解説資料や、削除された文面について知りたい方は、筆者宛に連絡ください。(連絡先は資料編の冒頭を参照)

ここに載せた資料の内、削除した部分については太字とした。
一行空きは、元資料のページを表す。
は、解説不明な文字を表す。

1. 修学旅行日記 (浅川市大谷家所蔵)

(注) 資料活用の便宜上、日付の部分は太文字とした。

修学旅行日記

明治二十一年十二月十七日。群馬縣尋師範学校生徒職員総て七十余名
修学旅行トシテ日光地方へ向テ出発ス。其服装ハ脚絆ヲ着ケ背囊ヲ負
ヒ其中二日々必用ノ物品ヲ蔵メ而シテ総生徒ヲ一中隊ニ編成シ兵式体操教師
山田文太郎氏之方長トナリ組長各小隊ニ長トシ什長トシ小隊長トナリ伍長
分隊ニ長タリ。本日午前九時五分全体整列シ校門ヲ出ス。此日天気晴朗ニ
シテ吾等ノ出立ヲ幸スル者ノ如シ。同十分五分南勢多郡上泉村路傍ニテ小
憩。同十一時十分同郡堀越村林中ニテ小憩。同十一時四十分同郡大胡町ニ
着シ二分シテ一組二組八美濃屋三組四組八伊勢屋ニテ弁当ヲ喫シ全隊ノ出
立ニ先テ先発者今成弁三速川仙次郎塩谷璃次郎新井芳次郎生方一
鷹ノ五氏出発。午後零時五十五分全隊合併整列シテ当所ヲ出立シ同一時
五十分南勢多郡女淵村路傍ノ墓地ニテ小憩。ソレヨリ同郡新川村善昌寺ニ

至ル。此寺ハ舟田長門入道善昌ノ建立ニシテ間口八間奥行七間ニシテ側ニナラズ
ノカヤ庭中ニ新田義重公ノ植エル所ノ多羅樹アリ。寺後ノ林中ニ新田義貞源
頼朝舟田長門入道善昌ノ墓及其他數十ノ墓アリシガ適當ナル案内者ナク

シ一之ヲ確知スル事能ハズ。是ヨリ僅ヲ距テテ新田義宗公ノ墓アリ。是ヨリ下リテ山
田郡大間々町ニ至ル。此時先発者出迎ヒ案内シテ二組十五人三組ノ内八人八吉野
屋二組十六人及本部八豊田屋二組十五人三組ノ内九及毛利青松鈴木ノ三氏
八鶴屋ニ宿ス。散歩時歩八午後八時 ナリ。

同十八日曇天。午前六時三十分起床。同八時全隊本隊ノ旅宿豊田屋ノ前
ニ集リ整列シテ二隊二分一隊八山田小学校第二分校ヲ他ノ一隊八大間々
尋常小学校ヲ余觀ス。同八時四十五分大間々尋常小学校ニ達シ暫時休息ノ
後七人ツツ分レテ各教場ヲ余觀スベキノ報知アリ。各組ヲ先メヨリ余輩ハ尋常
科第二級教場ニ入ルニ普通科第三読本ノ授業ニテ生徒八三十八人授業八小林喜八

氏ニシテ生徒モ可ナリ。騒々シカラズシテ授業モ甚宜敷様ニ見エタリ。同十分三十分兩隊當校
ノ庭中ニ合併整列シテ出立ス。此時松本源作氏病作りテ帰校ス。同十分三十八分
高野春吉氏ノ墓ニ至リ香ヲ立テテ拝礼シ是ヨリ進テ同十一時五十分南勢多郡
先原村路傍ナル渡良瀬川ノ北岸貴船神社ノ境内ニテ行厨ヲ出シテ之ヲ食ヒ此時

先発者飯塚慶次郎對比地関三郎沢口篤五郎根岸福弥塚坂弁三ノ五氏出
立ス。後午後零時三十分路傍ニ整列。滝沢教頭ヨリ此ノ如ク一ノ「ソサイチー」ヲナスニ

当リ一人ノ不注意ヨリ全体ノ「ソサイチー」ヲ書スルモノナレバ一同各自注意シテ全体ノ「ソ
サイチー」ヲ書サズ又我モ後二八糞履ヲ穿クカモ計リ難シト雖モ此修学旅行ハ氣
質鍛鍊ナレバ少シ位ノ足痛ニテ漫ニ糞履ヲ穿カザル様云々及ヒ毛利幹事
ヨリ服装ヲ乱サザル様注意スベシ云々ノ御話アリ。終テ午後零時四十分出立
同二時四分南勢多郡水沢村渡良瀬川ノ岸ニテ小憩。同二時四十分花輪駅ニ
達シ三組十七人二組ノ内八人中知屋二組十五人及副監教頭今井屋二組ノ内

七人及本部八吉田屋二組十五人八若松屋二宿ス。先発者八午後零時
四十五分当駅ニ着シ同二時四十分駅ノ入口。出迎ス。余ハ着宿ノ後滝沢教其他
生徒十人ト石原和三郎家ノ宅ニ行キテ種々饗應ヲ受シテ宿ニ帰ル。散歩
時間八前日ノ如シ。

(文面削除)

同二十四日晴天。午前六時三十分起床。同八時旅宿ノ前ニ整列シ直ニ出立シ栃
木縣尋常師範学校ニ至リ楼上ノ講堂ニテ背囊ヲラロシ當校及當校
附属小学校及栃木縣尋常中学校ノ三校ヲ廻觀シタル此何レモ各室スト
一ブノ後アリ。師範校ハ構造宏大ニシテ一室ニ二学務課ヲ置ク。男生徒八十名計女生徒十四名ニシテ

當校附属小学校ハ生徒百五十名計中学校モ同百五十名計ニシテ女子部アリ
ト云フ。何レモ授業ナリ。唯見ル所ハ教室寢室等ノ整頓等ナリ。再ヒ講堂ニ至
リ暫時休息ノ後背囊ヲ負ヒ師範学校生徒ノ先導ニテ八幡山ニ登リ小憩後
降りテ行厨ヲ負ヒ宇都宮旧城址ナル体操場ニ至リ師範学校生徒二隊二分一隊
ハ中隊運動一隊ハ柔軟体操ヲ行ヒ次ニ甲乙兩組合併ニテ銃剣術ヲナシ終テ

河内郡第一高等小学校ニ至リ玄冠前ニ整列シソレリステ一シヨニ行キ一礼
ヲ行フ。此時滝沢教頭栃木縣師範学校生徒ニ對シ優遇ニ預リシヨヲ謝シ受
栃木縣尋常師範学校教頭旅行ノ節ナルニモ拘ラズ体操ヲ行ヒタルヲ勞
シ分レテ暫時休憩ノ後午後零時四分発ノ蒸車ニ乗り込ミ宇都宮

ヲ出立シ同五十分小山停車場ニ達シ小憩シテ蒸車ヲ降り代へ車中ニ行厨ヲ開
キ自由ニ之ヲ喫ス。ソレヨリ栃木佐野足利等ヲ經テ同二時四十五分桐生
ステーションニ到着シ是ヨリ蒸車ヲ下リ山田高等小学校ニ至リ庭中

ニテ暫時休憩ノ後當校生徒隊列運動球竿体操及柔軟体操ヲナシ次
二甲乙丙ノ三組合併ニテ柔軟体操ヲ行ヒソレヨリ當校ノ教場ヲ廻觀シテ出立ス。此時大竹光八
氏足痛ニテ列ヲ離シ旅宿金木屋ニ行ク。是ヨリ相生尋常小学校及機械場ヲ余觀
シ四時十七分旅宿ニ着ス。本部及四組十六人一組ノ内一人八金木屋一組十四人三組ノ内九人八丸屋

三組ノ内八人及一組八藤屋ニ泊ス。散歩ノ時間八午後八時 ナリ
同二十五日晴天。午前六時三十分起床。同八時本部ノ旅宿金木屋ノ前ニ集リ直ニ
出立。同九時三十分南勢多郡新川村林中ニテ小憩。同十一時十五分同郡女淵村路傍
ノ墓所ニテ小憩。午後零時三十分大胡町ニテ一組二組本部八伊勢屋三組四組八美
濃屋ニテ弁當ヲ食シ同一時五分出立。同二時三十分南勢多郡沖村ニテ小憩。

ソレヨリ前橋ニ着シ校門ヲ入り全隊整列ス。此時滝沢教頭ヨリ今日只今二十一年度
修学旅行ヲ終レシ。此度ノ旅行ハ日数九日ニシテ里数凡五十四里ニシテサレハ病氣足痛
等ノ者アリシガ全体ニヒ八寒ニ僅少ノ事ニテ今日帰校シタル。滝沢ニ戻リテ満足ナリ。且昨年ノ

修学旅行ニ比スレバ少クシテ利益多シ云々及明日八御目ニ掛ル事ヲ得ルカ計
リ難ケレバトテ冷水浴ノ事ニ付テ其利益及此冬帰省スルモ怠ル事勿レ云々ノ御
話アリ。終テ全隊分ル。時二午後三時三十分ナリ。

右ノ日記ハ八余リ。長二流レン事ヲ恐レ形容及考等八書シテ記セヌ。因テ左ニ聊カ

考す述べ。

今度ノ旅行ニテ旅行ニテ利益ヲ得シ事多シト。就中最多キハ足尾村銅山ニテ余ハ未ダ嘗テ礦山ヲ見シ事ナケレバ銅坑ト云ヒ焼場ト云ヒ其他種々ノ機關未ダ想像モセザル所ニシテ至ル所見ルモノ皆驚クノミ。既ニ本文中ニ述ル如ク充分ニ説明ヲ聞ク事ヲ得ズ。因テ種々ノ機關ヲ連続シテ順序正シク了解スル能ハズト雖モ銅山ハ此ノ如キ者ナルノ大畧ヲ知ルニ足レリ。又当所吏員ノ親切丁寧ナルニ感ゼリ。

旅行ノ最モ困難ナリシハ二十一日二十三日ノ両日ニシテ二十一日山中ノ険路ヲ登

リ中善寺湖畔ヲ過ル中ハ最早十二時過ギ空腹且雪中ナレバ両足ハ氷ルガ如ク。

二十三日ハ旅行中行程(蒸車ニ乗リシ日ヲ除ク)最多ク泥濘ニテ肉ヲ生シ中食前八随分空腹ナリシガ両日トモ歩行ニ堪ヘザル程ニハアラザリシナリ。

里俗ニ日光ヲ見ザレバ結構ヲ云フ勿レトノ事ヲ聞キ居タリシガ實際之ヲ觀ルニ至リテハ想像程ニハ非ザリシナリ。然シ此唯美麗ト云フベキ事又諸侯ヨリ巨額ノ金円ヲ費シ種々ノ献寄物多キヲ見レバ夫レ或ハ徳川氏ノ諸侯ヲ疲弊セシメントノ一政畧ナラカト考ヘタリ。

栃木縣尋常師範学校ハ我群馬県尋常師範学校ニ比スレバ校舍ノ宏大ナルト「ストープ」ノ備付等ハ遙ニ勝レリト雖モ手前味噌ノ毀リハ免ルル事能ハザルベケレド整頓清潔等ニ至リテハ下ニ出スト感ゼリ。

当校職員生徒諸君ヲ送り迎ヘ等特別ノ優遇ヲ蒙リシハ歡喜ニ堪ヘザルナリ。又生徒諸君ノ体操ハ随分見事ナリキ。

大谷 廣吉

2.『七十余年の回顧』その3『勢多郡赤城村角田家所蔵』

(注)資料活用の便宜上、小項目は太文字とした。

(文面削除)

①(足尾鑛山見学)

此見學も鈴木棟一先生の引率されしものなるが、雨後の日に、道路泥濘よく滑りて足尾までゆく間に一足の草鞋を切らせし事を記憶す、先づ早朝に前橋を出て勿論列

など作らす三三五五大胡より月田を経て神梅を過ぎ田澤水沼、花輪、神戸、草木、澤入を渡良瀬川に沿ひて足尾町に至れり、行程十五里^四今の青年には驚くべき距離なり、翌日足尾町を出てて鉱山を見学す精鉱所より冶金場など全部を見学し坑内にも入りて採掘する様まで実見せり、夫れより再び足尾町ル歸りて中食を済ませ歸橋の準備をなす以上の行程正に二・三里午後足尾町を出て大間々町に至る此行程九里と云ふ此日 中に疲勞せし生徒を出し途中路傍

に倒れて容易に動かざるものありき、夜に入りて全部大間々町の

豊田屋に集まりて宿泊す、然るに此夜数名の生徒が喧嘩を始め憤慨の極夜中前橋まで帰へると云ひて出發せり、此生徒は伊勢崎辺の出身にて後藤某にて足の長きこと驚くべき程にて座して両脚を肩に擔ぎて戯るる男なりき、他の生徒は一泊後歸校せしが鬼に角當時の生徒の歩行力は今考ふるにも驚くべき程なりき、

(文面削除)

(24) 修学旅行

時々修学旅行を実施せしが、其名の如く修學にして又氣質鍛鍊をなすを最大目的とす、

(1) 伊香保旅行全校生徒を一隊とし武装し更に年級に

より研究に必要なものを背囊に收めしむ例ハハ化學藥品や器具を携帯するもの、鉱物岩石を砕きて採集する器具を携帯するもの動物を採集する網とか毒壺など携帯するもの植物を 採集する器具を携帯するもの又寫生器具を持ち行くもの等種々のものを携帯せしむ、

武装して前橋より渋川を経て伊香保まで徒歩す、中々の行程なり宿舎は村松と云ひて伊香保の中程にありたり、漸く茲に着して武装を解くや直ちに温泉の分析を始むるもの

あり、博物の研究に出づるものあり、山野に出でて寫生するものあり、各成績を呈出すへきにより皆熱心にして多忙なりといふべし、先づ一通りの研究か終るや自由時間となり入浴して各自勝手に遊ぶ事を得るものなり、此夜夕食の時面白き事件が勃發せり即ち村松にては團體を宿泊する目的にて食堂を作り一度に夕食を出せり、(当時全校にて百人内外なり)食事中吾妻出身の篠原兼平(面白き野人にて言葉が甚だ下品)氏が女中に大根^{ダイコン}のかつかつを呉れと云ひし處女中がかつかつを持参して態とダイコンのかつかつを上げますと云ひて差出せし處側の生徒が生意氣を云ふ奴だ退治せよと命令一下するや食ふ食ふ忍ち食ひ尽し飯櫃を叩き飯を出せと怒鳴る、女中が泣き出すといふ騒乱となれり結局帳場が出て詫ひて事は收まり、

明る日は鶏十数羽と食品とを馬にて榛名神社に送り、生徒は隊伍を調へて旅館を出て湖畔より天神峠を越えて榛名町の某御師の家に向ふ(途上粟を拾きしより十月頃ならんか)携帶の鶏にて薩摩汁を作りて食事をなし再び伊香保の歸りて

宿泊し翌日歸校す歸校の日は大雨なれとも豫定を変更せず渋川町へ出づるまでに雨水は肌を流るる様ルなり外套の頭布にて顔は暑く実に苦しき、

(2) 浅間旅行此行は堂々たるものにて氣質鍛鍊を目的とせり、明治二十年の七月十七・八日頃より実施されたり縣より通過する郡一通知して便宜を頼み置きしものなり、土用最中なるに武装して銃器を擔ひ武歩整然と前橋より

高崎に向ふ流汗何の如し、漸く高崎に至れ八郡長始め郡

書記達と小学校職員などに迎へられ中央小学校に招待され湯場、

水水等豊富に供與されたり、茲にて中食をなして休憩後郡書記の嚮導にて碓氷郡に入れ八碓氷郡より萩原太郎といふ

郡書記に迎へられ安中町に至る、先づ小学校に休憩し夫れより分れて数軒の旅宿に入る、本部には校長以下職員が宿泊して命令は悉く茲より下る、先づ旅宿に就けるもハシヤツなど洗濯すべきものハ全身部自身にて洗濯して物干竿に掛ケ新しきシヤツ、服に改めて一応服装検査を受け外出散歩を許可せらる、散歩引上げ

時間とか、朝出發前の集合など八本部より喇叭にて知らするものとす、

第二日は郡書記の嚮導にて安中より坂本まで行軍する日なり此日は殊に陽射激しく其の上昨夜寝台より畳に下り且蚤に攻められ睡眠不足なれ八疲れも亦甚だし、松井田より五料に入れる頃八徒歩しつづ眠り居るもの幾人もあり電柱に衝き当りて目覚むる人あり、坂本の宿舎に入り前日如く洗濯などして散歩時間に昏寝して疲労を回復せり、夕食後不時呼集の喇叭あり

驚きて集合すれ八隊を調へて山上の一神社に登り冷風を浴みながら内田先生のバイオリンにて唱歌の練習をなせり、後先生の獨奏などありたり、偕て坂本にては五軒位に分宿せしならん、翌朝の出發時間は前夜本部より通知され居るを以て朝食時間を宿主に厳達して安心し居りし所朝食が間に合はず余り急がせし為め真のある飯にて漸く一椀位にて出發準備にかかれ八はや集合喇叭は町内に響き渡り、夫れより隊伍を整へて碓氷峠を踏破す勿論汽車は未だ無し(松井田まで通せし頃)此の碓氷峠

は四里といふも新道が出来て道八大に緩くなりしも距離が甚だしく増大せり、或場所には八町一町の枕あり即ち旧道なれは一町なるも新道は八町なりといふ意味なり、朝食を十分摂らず真夏の行軍にて軍装又重けれ八途中倒るもの阿り余が班にては長沼滴太郎(後に宗)となり佐波郡出身にて縣會議員となりし男にて当時四年生なり全は三年生)は青くなりし故銃器などを取りて軽くし尚肩に手を掛ケさせなるとして漸く頂上まで登れり、輕井沢開始にて新輕井沢の出来

たてなり、此新輕井沢に到着せり、茲にて休憩となり我が班のものは今朝殆んど朝食をせぬとの理由にて一茶店にて蕎麦と飯とを與へられたり今尚記憶するに蕎麦を八杯食せしも余り空腹脹なりし故殆んど味ハ無かりき、茲を立ち出てて沓掛に宿泊せししが七月二十一日かと記憶するに今上簇中にて早きは爾掻き中なりしには驚けり何となれ八我が里にては遅くとも六月中には收購を終る習慣なれ八なり、茲に旅装を解き服装を改めて散歩を許可する思い思いに遊びたりし

も大体野原の方に遊びに行きしとき多人数尔て唱歌など歌ひし故兎か驚きて跳び出し駈けゆけ八其方にも生徒か居りて

大勢にて騒ぐゆへ又跳び歸へる、歸へれ八又騒ぐといふ風にて何つ方へ逃れんとするも騒ぎ立てられ遂に力尽きてとへめ様になりし時荻野佐助君ハ蹈み殺されたり、(荻野佐助氏は後に折原佐助となれり)沓掛に一泊して翌曉淺間山に登山す案内人数名一間位の竹竿に提燈を付けて草の茂れる原野を分けゆくいよいよ草も善く生長せざる焼け石の肌の表ハるる處に至れ八植木にしても思ふ

(P424~429の資料が見つからない)

(文面削除)

3.『群馬県行政文書件名第三集 明治期学務 修学旅行関係文書(県立文書館所蔵)』

(注)資料活用の便宜上、元資料の印刷されている部分については太文字とした。

『尋常師範学校宛 修学旅行指令案』

群馬県立尋常師範学校 六一四印
一七八年六月十三日
群馬県立尋常師範学校 事務 印
群馬県立尋常師範学校 事務 印
指令案
明治二十六年六月十三日甲第六十六号上申生
徒修学旅行ノ件聞届ク
年月日 知事

(資料削除)

『群馬県知事宛 尋常中学校修学旅行認可上申書』

甲第二十四号
本校生徒一同職員附添へ本月十七日
ヨリ往復四日ノ日数ヲ以テ栃木縣足尾銅
山へ修學ノ為メ旅行ヲ為致度候ニ付御認可
相成度此段上申候也
明治二十七年五月十二日
群馬縣尋常中学校長山本宣 印

(資料削除)
明治四十一年八月、玉村尋常高等小学校修学旅行貯金ノ報告

六、玉村尋常高等小学校ニ於ケル修學旅行費

児童ヲシテ修学旅行ヲナシムル事ノ教育的價値ニツキテハ茲ニ之ヲ論スルノ必要ナシ唯修學旅行ハ其ノ方法ノ造否注意ノ疎密ニ因リテ或ハ絶大ナル効果ヲ得或ハ言フヘカラサル弊害ヲ見ルノ差ヲ生ス世上皆修学旅行ノ價値利益ノ大ナルヲ認ム而カモ往々ニシテ旅行ノ目的ヲ遂クルコト能ハサルノミナラス徒ラニ多クノ費用ト多クノ時間トヲ費シタルニ終リ而シテ時ニ兎角ノ論議ヲ醸スニ至レルハ畢竟旅行ノ方法ト注意トノ缺クル處アルニ因スルニ外ナラス又修学旅行ヲ行フニツキテハ学校トシテノ立場ヨリ研究スルト同時ニ一面児童ノ家庭ヲ立場トシテ研究ヲ要スルコトハ忘ムヘカラサル處トス即旅行ニハ幾何ノ旅費ヲ要スルノミナラス父兄ノ立場トシテ父兄ノ衷心ヲ顧ミザルヘカラス児童力孱々トシテ如何ニモ愉快ヲシク行フ修学旅行ノ裏面ニハ一種言フヘカラサル悲惨ノ涙力浪等父兄ノ中ニ存在スルコトヲ忘ルヘカラス何ソヤ旅費及児童ノ服装等ニツキテハ貧困ナル世ノ父兄ノ胸中即之ナリ
故ニ修學旅行ヲ行フニアタリテハ少クモ左ノ
三點ニツキテ研究スルヲ要ス
一、旅行地ノ撰定
二、旅行費ノ用意
三、旅行ノ方法
本校ニ於ケル旅行ニツキテハ少クモ此等ノ諸點ニ判シテ八十分ニ研究シ調査シ而シテ実施上確力ニ最便ニシテ効果多キヲ信ス以下順次ニ之ヲ述フベシ
一、旅行地ノ撰定
旅行地ノ撰定ハ学年ノ高下費用ノ多少、主要目的ノ如何ヲ始メトシテ巨、交通、土地ノ狀況等多方面ヨリ研究スヘキ事項ニシテ從テ旅行ノ價値ノ生死ニ關スル重要ノ事トス学校ニヨリテ八年々歳々一定セズ其時ニミテ之レヲ定ムル處多シ此レ敢テ不可ナントスルモ吾人ハ之ヲ以テ一種ノ弊ヲ受ルノ一因トシ一定ノ旅行地ヲ撰定シ旅行ニ關スル規程ヲ定メタリ

二、旅行費ノ用意

前ニモ述ヘタル力如ク旅行費ナルモノハ極メテ僅少ノ金額ニ過キズ然カモ貧富ノ別ナク強制的ニ就学セシムル今日ニアリテ僅少ナル金額ト雖モ貧乏ノ家庭

(文面削除)

ニアリテハ決シテ容易ノモノト見ルヘカラス然カモ旅行ニ要スル実費ノ外或ハ履物ニ或ハ手拭ニ等マタ多少ノ費用ヲ要ス然シテ若シ夫レ貧困ナルカタメニ近隣ノ児童ハ拳テ旅行スルニ一人缺席セシムルカ如キ悲惨ノ現象ヲ見ルカ如キハ務メテ避ケサルヘカラス聞説ク某地ノ如キハ旅行前ニ於テ質屋ノ混雜ヲ見ルト学校カ修学旅行ヲナスカ為ニ父兄ヲシテ可愛ナル兒女ノ為メニ茲ニ悲慘ノ涙アラシムルカ如キハ出来得ル限リ避ケサルヘカラス因リテ本校ニテハ別ニ修学旅行貯金規程ヲ作り毎月々々貯蓄セシメ少クモ旅行費タケハ知ラズ知ラズノ間ニ用意シ旅行ニアタリテハ之レカタメ一毫ヲモ要セサルカ如クセリ

5、整理

旅行ノ利用即得タル材料ヲ消化シテ利益アル様ニスルコトハ旅行事業ノ一要部ナリ整理即チ之レナリ旅行ノ準備カ旅行以前ヨリノ教授ニ其根柢ヲ有スルカ如ク旅行語ノ整理モ亦教授ト有機的ニ結合シテ教育ニ実益アル様ニカメサルヘカラス旅行ニ先チテナシタル教授カ旅行ノ根柢ニシテ旅行後ノ教授ハ実ニ旅行ノ果實ナルヘシ旅行中ノ諸印象ハ豊富ニシテ且多種ナルカ故ニ之レヲ分離セシメスシテ結合セシムルノ必要アリ故ニ大ニ整理ニ重キヲオケリ加之ナラス引率者ハ次ノ要目ニツキテ記載セル復命書ヲ校長ニ差出シ後年ノ參考トス
一、道中ノ簡單ナル叙述
二、教授上重要ナル材料ノ概括的叙述
三、児童ノ一般的状态
四、実行上殊持ノ点ニツキテノ経験
五、教訓上ノ經驗
六、将来実行上ノ意見
七、費用ノ計算
(旅行貯金規程別紙ノ通り)